

平成25年度第3回千葉県社会教育委員会議事録

平成25年10月28日(月)
午後2時30分から午後4時30分
千葉市文化センター9階 会議室

出席委員(敬称略五十音順)

赤田 靖英	金 哲彦	黒澤 真澄	坂井 麻貴子
佐久間 敦子	朱膳寺 宏一	関 亮	高田 悦子
田邊 光子	福留 強		

出席事務局職員

千葉県教育庁教育振興部長	重 栖 聡 司
千葉県教育庁教育振興部生涯学習課長	黒川 浩 一
さわやかちば県民プラザ副所長	江澤 義 夫
千葉県立中央図書館長	葉山 龍次郎
教育振興部生涯学習課 主幹兼学校・家庭・地域連携室長	田村 正
主幹兼社会教育振興室長	奥山 恵子
同 副主幹	高橋 正名
同 主査	鈴木 大介
同 社会教育主事	鶴岡 敦
同 社会教育主事	矢部 進
同 社会教育主事	岡野 健一郎
同 社会教育主事	小泉 憲治
同 社会教育主事	鈴木 圭一
同 社会教育主事	遠山 宗利
同 社会教育主事	小泉 弘代
東葛飾教育事務所 社会教育主事	赤澤 敏樹
東上総教育事務所 社会教育主事	小幡 亮二
南房総教育事務所 社会教育主事	金房 努

1 開 会

2 挨拶

教育委員会挨拶（重栖 教育振興部長）

会長挨拶（福留 社会教育委員会議議長）

3 議 事

（1）県立青少年教育施設の今後の在り方について

議 長 「県立青少年教育施設の今後の在り方について」答申案について前回に続く討議だが、今回は最後の討議となる。事務局から説明をお願いしたい。

事 務 局 [資料を事務局から説明]

議 長 事務局から説明があつたが、質問や意見はあるか。

委 員 3点ほどお話したい。

1つ目は、「子ども」と「青少年」の表記の仕方についてだが、青少年教育施設のことなのに、子どもという表記が多いと感じた。内容によっては、「青少年」としても良いのではないか。「子ども」という表記が多いと、青少年教育施設という表記の仕方が霞んでしまうと感じられた。

具体的には、2ページ「昔の子どもは、集団で自然の中で遊びながら、様々な自然体験や社会体験を獲得し、その後の判断し、行動する力に生かすことができた。」

青少年教育施設は、青少年の集団生活の場であり、若者のたまり場でもあったわけで、青少年と整理されておいた方が良いのではないか。

3ページの2つ目は、「子ども」という表記の仕方で良いのではないか。

「青少年教育施設における宿泊を伴った団体生活体験は、子どもたちにとって、仲間づくり、人間関係づくりをする上で大変重要なことである。」ここは、文章と内容が合っていると思う。その他にも何箇所か見受けられたので吟味して欲しい。

11ページのまるの4つ目の「昔の子どもには、日常生活を

共に過ごす異年齢のグループの中に居場所があり、リーダーは生活の中から自然発生的に生まれた。県立青少年教育施設は、居場所づくりやリーダー育成の役割も担うべきである。」という表記だが、居場所があったという意味でいうと、青少年教育施設なので青少年で良いのではないか。表記は検討した方が良い。

16ページのまるの1つ目の「家庭の経済格差が、子どもの体験格差につながるという指摘もあり、全ての子どもに、経済格差に影響されない体験活動を提供することが重要である。」青少年の施設ということ考えた場合、ここも青少年とし、文章の整合性をとった方が良い。

18ページのまるの5つ目は、小学校4年生のことなので「子ども」が良いが、一番最後に記載されている「それぞれの地域の文化や歴史をアピールする役割を県立青少年教育施設に持たせることで、地域と連携や協力が生まれ、子どもたちに郷土愛を育むことにつながる」と考える。」の所は、「青少年」でも良いのではないか

21ページのまるの4つ目の「平成25年6月に『第2期教育振興基本計画』が閣議決定された。この計画の中で『社会が激しく変化する中で自立と協働を図るための能動的・主体的な力である【社会を生き抜く力】を誰もが身に付けられるようにする。』と示されている。正に、県立青少年教育施設は団体生活や集団活動をとおり、子どもたちに『社会を生き抜く力』を培うことができると考える。」この、「子どもたちに社会を生き抜く力」というのは、『第2次教育振興基本計画』を確認していただいて、「子ども」なのか「青少年」なのか確認して欲しい。

文字の差し替えだけなので、内容には問題はない。その内容によって、「子ども」と「青少年」の言葉の使い方の整理を再度検討し整理して欲しい。

2つ目は、19ページのまるの4つ目の「昔の青年の家は、いわゆる青年団や農村部をどのようにまとめ、力を結集していくかに取り組んでいた。地域に対する貢献も施設にとって必要である。」「昔の青年の家」という表現は、好ましくないのではないか。「昔の」という表現ではなく、「創設期」や「創立期」などと変えた方が良いのではないか。

3つ目、これは「県立青少年教育施設の今後の在り方について」という諮問に応じた答申である。このタイトルだけだと、行政的で、アピール度が足りないのではないか。1ページのまるの3つ目に「千葉の未来を担う子どもの育成を目指すことが必要である」とある。個人の希望ではあるが、副題として「— 輝く千葉を担う子どもたちの育成を目指して— としたらどうだろうか。「これからの青少年に期待しているんだ」という私達の答申のメッセージが、伝わるのではないか。

議 長 今の件で、何か意見はあるか。

以前に「少年自然の家」と「青年の家」について明確に表記を分けた時期があった。この答申では、少年自然の家と青年の家が一緒なので、冒頭にことわっておいて、以下この通り表記するという書き方もある。

また、サブタイトルを付けた方が良いという意見があったが。

事 務 局 国の体験活動の答申にも、「子どもたち」と「青少年」という表現の表記があるので、御指摘があったところを再度検討したい。

委 員 よろしくお願ひしたい。

委 員 P16 や P18、P21 で、日本にとってタイムリーな話題であるオリンピック・パラリンピックに関わる項目が、今後の在り方の中に、「県外料金設定は好ましくない」、「国際化に向け英語等の表記による案内の作成」、「ボランティア育成のための宿泊研修施設としての活用」等が挙げられている。

今回の答申の中で、期限が決められているのは、2020年の東京オリンピック・パラリンピックだけだと思う。この期限が決められていることに対して提案をするのであれば、もっと具体的に踏み込んで良いのではないか。

今後、組織委員会が開かれるのだが、東京オリンピックでは、8～10万人のボランティアが必要になると考えられている。関東一帯の大学生を中心としたボランティア組織ができる。東京の施設や関東の大学のキャンパスが使われるのではないか。

せつかくなので、千葉県でも、この県立青少年教育施設をボランティア養成施設に認定するなど言いきっても良いのではないか。

議 長 具体的に踏み込んだらどうかという提案だが、検討して欲しい。先程のサブタイトルはどうか。

事 務 局 他の委員の御意見も伺いたい。

委 員 是非、前向きなアピールができるサブタイトルをつけたい。

議 長 他の委員の意見はどうか。

委 員 異議なし。

議 長 では、サブタイトルの文言について検討したい。

委 員 本文の1ページに既に記載があるので、これを生かしてサブタイトルを付けることには何ら違和感はないと思う。本文の中の文章をサブタイトルに使い、「輝く千葉の未来を担う子どもたちの育成を目指して」というのはどうだろうか。政策的にもアピールすることが必要ではないか。

委 員 「輝く千葉」の「輝く」が、千葉に係るのか、それとも子どもにかかるのかわからない。それならば、「高い志を持って、失敗を恐れずに、様々な困難な課題を乗り越えて生きていく力を育み・・・」とあるので、「志を持って」など、子どもたち自身の頑張りや力を表に出すような言葉にしたらどうか。「前向きに子どもたちを育てていきましょう」というメッセージが伝わるタイトルが良いのではないか。

委 員 アピールとしては、何か副題をつけた方が良いと思う。もし付けるのであれば、本文の中の言葉を活かしたいと思う。堅いかもかもしれないが「千葉の未来を担う子ども」を活かしたい。

議 長 「輝く」を入れるか。

- 委員 「輝け！ちば元気プラン」とあったので、「輝く」を入れたらどうかと思った。後は事務局に任せたい。
- 議長 サブタイトルを入れるということと、「千葉の未来を担う子ども」という文言を入れて事務局で検討するということが良いか。
- 委員 サブタイトルは良いと思う。「輝く」というのは、県のアピールに後追いする感じなので、むしろ「高い志」「新時代を拓く子ども」などのニュアンスで、うまく折衷案を考えて欲しい。
- 委員 本文に「千葉の未来を担う子どもたちの育成」が2回も出てくるので、アピールしたい内容だと思う。
- 委員 未来のルビを「あす」と読むこともできる。イントネーションなど考えてどちらが良いか。参考までに将来と書いて「あす」としても良いのではないか。
- 事務局 「輝く」は、入れない方が良くないと受け取った。
「高い志」「千葉の未来を担う子どもの育成」両方入れるか、それともどちらかにするか。
- 委員 柔らかい表現が良いのではないか。未来と書いて「あす」が良い。
- 議長 それでは、「千葉の未来（あす）を担う子どもの育成を目指して」でよろしいか。他にあるか。
「県立青少年教育施設をボランティア養成施設に認定するなど言いきっても良いのではないか。」という意見は、事務局として答申に強調して記載することはできるか。
- 事務局 ボランティアの養成施設と言い切って良いかどうか検討させて欲しい。
- 委員 P21の「おわりに」とP15に記載の4の県立青少年教育施設の今後の在り方の（1）から（5）の位置づけがわからない。

(5) の魅力あるプログラム開発のところに、ボランティア研修を入れても良いのではないか。ボランティアは、スポーツに限らず、あらゆる社会では必要なものである。今回は、たまたまオリンピックが開催となっただけなので、おわりにだと付け足しのように感じてしまう。

議 長 確かに、オリンピック東京開催が決まってから付け足された内容だが、今の提案のとおり (5) の魅力あるプログラム開発に入れたらどうか。

委 員 (5) の魅力あるプログラム開発の方に、ボランティア研修を入れても良いが、(4) の新しい視点に立った管理運営について、来る2020年のオリンピックのボランティア等に積極的に取り組むとか協力するなどを入れても良いのではないか。
「おわりに」の中の、文末の表現で、「機能できるのではないだろうか」という表現ではない方が良い。

委 員 宿泊施設を伴うというところにアドバンテージがあり、研修は日帰りではできないので、(4) 新しい視点に立った管理運営に入れることで、指定管理者の方で、積極的に動くということがあると思う。

事 務 局 (4) の新しい視点に立った管理運営についての中にも移動するということが良いか。

委 員 (4) に入れても良いと思う。

事 務 局 おわりにの上から3つ目のまるの、最初の4行の「過日、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した。それは、多くの青少年に『夢と希望』を与え、『日本人が自信を取り戻し社会が元気になる。』要因となることだろう。東京の隣に位置する千葉県も大きく変わる。国の玄関としての成田空港や豊かな自然のある千葉県の発展が期待される。」はそのまま残し、残りの4行の「オリンピック・パラリンピックによって海外から多くの人々が日本を訪れる。その方々を『おもてなし』の気持ちで迎えるため、多くのボランティアの育成

が急務となるだろう。千葉県の協力の一つとして、ボランティア育成のための研修施設として県立青少年教育施設が機能できるのではないだろうか。」は、(4)に移動させるということが良いか。

委員 (4)に入れて良いと思う。

委員 おそらく国内だけではなく、海外からもたくさん来てキャンプを張ったりするので、そういう場を使ってもらいPRすることも可能になる。

議長 かなり前向きな提案があった。提案しやすくて良いと思う。

事務局 先程の、サブタイトルについて、確認したい。県で出された「千葉の未来を担う子どもの育成」と全く同じ言葉で、読み方だけを変えて、サブタイトルをつけるということが良いか。

委員 基本的には、どのサブタイトルでも良いと思うが、「おわりに」の中の言葉の「冒険・挑戦・鍛練」「たくましく」「思いやりを持って」も審議の中でもでてきたので、そちらを使っても良いのではないか。

私達が、県立青少年教育施設に何を求め、何をそこでの役割としていきたいのかを強く出しても良いと思う。

「千葉の未来を担う子どもの育成」が多く使われているのであれば、新しい切り口になる言葉に変えても良いと思うが。

委員 日本語が乱れていると感じる。漢字で書いたものを無理に平仮名をつけて読み方を変えるのは良くない。教育現場に準ずる施設なので言葉通りの読み方にした方が良いと思う。

そのまま、言葉通りで、漢字で未来とするなら、「みらい」と読むようにし、「あす」とするなら平仮名で「あす」と表記すれば良いのではないか。

委員 学習指導要領でも、言葉を大切にと言われている。柔らかい表現との意見もあったので、あえて、「あす」や「あした」など、ルビをふることも可能だという意見を出した。今の意見で

良いと思う。

議長 ルビをとった形で良いか。

委員 異議なし。

委員 先程言ったように、県で既に使われている文言なので、変えた方が良いのではないか。

「夢や希望の実現に向けて」とあるので、「夢や希望の実現に向けた県立青少年教育施設を目指して」としたらどうか。

先程の「高い志」や「鍛練」は、強すぎるので、もっと柔らかい表現で良いのではないか。希望を持たせるような表現が良い。

委員 言葉によってずいぶん印象が変わってしまう。既に使われているかもしれないが、「千葉の未来を担う子どもの育成」は、分かりやすいし、いろんな解釈ができる。強い言葉を使うと、普通の人が使えないような施設と感じてしまうのではないか。ありきたりかもしれないが、無難な言葉の方が良い。

委員 「千葉の未来を担う子どもの育成を目指して」は、聞き慣れている。

「県立青少年教育施設の今後の在り方」のタイトルのあとにそこで何ができるのかという内容を入れたらどうか。

タイトルは大事だと思う。そこで何ができるのかとか、オリンピックに向けてというサブタイトルをつけたら、興味を持って見る人もいるのではないか。

議長 教育委員会にむけて、私達が提案するので、抵抗のない言葉で、さわやかにという考えもある。インパクトがある言葉を入れて、教育委員会に提案するという考えもある。インパクトがある言葉を入れた方が良いと私は考えている。

県立青少年教育施設を残すんだ、という私達の意味が入っているものにしても良い。

委員 サブタイトルが、本文とかけ離れてしまうと良くない。本文

の中から、選んだほうが良い。「はじめに」で、「『県立青少年教育施設の今後の在り方について』の検討が求められている」とある。3つ目のまるに「『千葉の未来を担う子どもの育成』を目指す必要がある。」とあり、メインテーマとして完結していると思う。

- 委員 それぞれ納得できる話だと思う。
答申の特徴を示す言葉でも良いのではないか。「県立青少年教育施設を改革していきましょう」というのは、社会状況の変化からきている。だから、「青少年をとりまく環境の変化の中で」というのはどうか。
答申の目標や特徴を表す言葉でも良いのではないか。答申の性格が出ると思う。

- 委員 「はじめに」「おわりに」が大切だという意見や本文の中からサブタイトルを出した方が良いという意見には、同感である。
P21の「おわりに」の中で、4つ目のまるの中の言葉「社会を生き抜く力」を活用し、『社会を生き抜く力』を培う体験活動を目指して」ではどうか。
なぜならば、これまでの議論の中で、いつも話題になっていたのは子どもたちの体験活動をどのように豊かにすれば良いのか、ということ。体験活動という文言がキーワードだと思う。

- 委員 「おわりに」を「結語」にしたらどうか。国の答申もそうだと思う。文章として締まるのではないか。

- 議長 「おわりに」は、中途半端かもしれない。

- 委員 「結語」は堅い言葉なので、「結び」としてでも良いのではないか。

- 議長 これまで県の答申はどうなっていたか。

- 事務局 中央教育審議会の答申は、「はじめに」と「おわりに」になっていた。

委員 青少年教育施設の特徴は何か。集まり、一緒にそろって活動することにある。「集い、携え、未来を担う子どもの育成」というのはどうか。

議長 たくさん出てきたが、事務局に任せたい。

事務局 「はじめに」と「おわりに」は、このままで良いか。

委員 かまわない。

議長 このままで良いと思う。

事務局 ホワイトボードにこれまでに出了案を書き出すので、この中から話し合っ絞って欲しい。

- 1 「千葉の未来を担う子どもの育成を目指して」
- 2 「夢や希望の実現に向けた青少年施設を目指して」
- 3 「『社会を生き抜く力』を培う体験活動を目指して」
- 4 「集い・携え・未来を担う子どもの育成」
- 5 「青少年をめぐる環境の変化の中で」
- 6 「冒険・挑戦・鍛練 たくましく育て千葉の子ども」

議長 具体的な方が良いのではないか。

委員 タイトルが長いので、サブタイトルは、短くインパクトのあるものにしたらどうか。

委員 焦点をはっきりさせたらどうか。字面としての見え方を大事にするのか、読んでもらうためのタイトルにするのか絞った方が良い。

議長 タイトルが抽象的な場合は、サブタイトルは具体的な方が良い。

委員 県立青少年教育施設を存続したいという願い、必要なんだという強いメッセージを込めた言葉にしたい。

- 議 長 抽象的な言葉を避けたらどうか。夢や未来は残らない。具体的な言葉にすると、社会を生き抜く力とか冒険・挑戦・鍛練など。
- 委 員 『社会を生き抜く力』を培う体験活動を目指して」の体験活動を青少年施設と変えても良いのではないかと
『社会を生き抜く力』を培う青少年教育施設を目指して」としたらどうか。
- 委 員 良いと思う。
ただ、タイトルに青少年施設があるので、タイトルと重複してしまうのではないかと。
- 委 員 何故「冒険・挑戦・鍛練」を推すのかというと2ページの体験活動の重要性の中で「『冒険・挑戦・鍛練』の3つの力を育てる教育が欠けていることが、現在の青少年の様々な課題につながっていると感じる。『冒険・挑戦・鍛練』の3つの力を育成するために、体験活動を取り入れた教育活動が重要である」とあり、この言葉が繰り返し出てきている。鍛練は、きつく感じるかもしれないが、ワクワク感があるように思う。
- 事 務 局 『社会を生き抜く力』を培う体験活動を通して」という案も出ている。
- 委 員 『社会を生き抜く力』を培う」と切ってしまうと良い。
- 議 長 たくさん出たが、皆さんの目が『社会を生き抜く力』に注目しているようだが。
- 事 務 局 「たくましく育て千葉の子ども」というのはどうか。
- 委 員 すっきりして良いと思う。
- 事 務 局 事務局案なので、委員の皆さんの意見をお願いしたい。

- 議 長 「冒険・挑戦・鍛練 たくましく育て千葉の子ども」で良いか。
- 委 員 「たくましく育て千葉の子ども」が良いのではないか。
- 議 長 冒険・挑戦・鍛練を入れた方がインパクトがあり、良いと思う。
- 委 員 この会議で、今の子どもは、冒険・挑戦・鍛練が足りないと聞いて、はっとした。だから、「冒険・挑戦・鍛練」は入れても良いと思う。
- 委 員 鍛練という言葉は、個人的には入れたくない。
- 委 員 私も鍛練は、除いた方が良いのではないかと思う。
- 議 長 この案の中から、一番下の案を取り上げ、「冒険・挑戦 たくましく育て千葉の子ども」はどうか。
- 事 務 局 本文の冒険・挑戦・鍛練をどのようにするのか。鍛練は除くのか。
- 委 員 本文はこのままで良い。無理に本文とサブタイトルを同じにしなくても良いのではないか。
読んだ時のわかりやすさを考え、この答申の目的や特徴を凝縮した言葉を入れるとこのようになったと考えれば、本文と全く同じにしなくても良いと思う。
- 議 長 鍛練は、たくましさの中に入っているということか。
- 事 務 局 何故、本文の中の「冒険・挑戦・鍛練」の鍛練だけ、一つ取ったのかという質問がくると思う。
- 委 員 私が発言した意図は、この答申が県民の皆さんに周知されることが前提である。県のプランや政策的なものを取り入れて話し合っていることが伝わるような表現にしていく方が、この答

申を活かすことができると思うので、サブタイトルをつけたらどうかと提案した。

議 長 違和感がなければ良いと思う。提案された背景は良く理解できた。本文の中の文章の流れの中で、県の政策にそっていると考える。

サブタイトルは「冒険・挑戦・鍛練 たくましく育て千葉の子ども」に絞ったので、後は、事務局にお任せしたい。委員の皆さんはよろしいか。

委 員 異議なし。

議 長 他の所で、意見はあるか。

委 員 18ページ4つ目のまるの「5つの県立青少年教育施設が、同じような管理運営ではなく利用者の限定やある施設を国際研修センターとして特化させるなど、それぞれの施設に特色をつけていくことについて検討が望まれる。」とある。19ページの2つ目のまるの「県立青少年教育施設では、施設の利用については、利用者によく相談をし、選択できる幅を持たせるなど、多くの人利用しやすいような管理運営をめざすべきである。」とある。特化・特色を持たせるのはとても良い。しかし、利用者を限定するというのと、多くの人利用しやすいようなというのは、少し矛盾すると思う。

利用者の限定をすることは、心配がある。地域の実態に合わせて地域の人自由利用できる部分を残していくことが必要である。

ある道の駅で、年配の地域の人が道端の草花の写真を撮ってそのレストランに飾った。植物の名前や説明をつけたりして、多くの人気づきが生まれた。詩心を動かされたり、思いを寄せていったりすることで、広がりがでて人々の学習に供与している。事務局が答申の説明の時に、多くの人活用することも念頭に置いて、良く説明して欲しい。

議 長 利用者の限定というのは、誤解を生むかもしれない。少し表現が強いのではないか。最初の趣旨はそういうことだったと思

うが、このままの文章だと説明不足になってしまうかもしれない。特色づけるということだが、特化というと他を入れないという意味に捉えられてしまうのではないか。

事務局 利用者の限定と特化が表現として強いのではないかという理解で良いか。

事務局 15ページにも下から2つ目のまると、「特化」とあるので、18ページのまるとの3つ目の「限定」を「利用対象者に合わせた」になおすなど柔らかい表現に再度考えたい。

委員 この意見を言った理由は、「鴨川青年の家は海」、「小見川少年自然の家は、川 カヌー」というイメージがある。冬季の閑散期には、そのように限定してしまうと利用者としては、使いにくい。空いている時は、地域の人が使えらるようになれば、利用率も上がる。

議長 他に意見はあるか。
それではこの答申案を承認してよいか。

委員 異議なし。

議長 これまでの話し合ったことをもとに、教育委員会に答申を提出したい。

事務局 答申の提出については、福留議長が代表して、教育委員会に11月5日午前中に提出していただく予定である。

この後、事務局で委員の皆様の意見をもとに早速修正に取りかかるが、これまでのように委員の皆様に郵送し確認する時間が取れないと思われる。その際には、議長に確認してもらい、一任ということで良いか。

委員 異議なし。

議長 事務局が修正をして、議長が確認をするということで良いか。時間をかけて議論してきたが、この答申については、以上

で終わりとしたい。

事務局 答申を議長が提出する際に、教育長に伝えて欲しいことなどあったら、出して欲しい。

委員 県立青少年教育施設のことについていろいろ議論してきたが、やはり想定が通常の児童生徒・青年を対象に話してきた。障害を持った方々も積極的に活用できる施設にしてほしい。障害を持った方々の居場所としても、出かけて活用できる施設にして欲しい。

議長 その他の議題はあるか。

事務局 その他は特にない。

委員 10月24日、25日に第55回全国社会教育研究大会三重大会、第44回東海北陸社会教育研究大会に、社会教育委員の代表で、参加したので報告したい。

2日目の第5分科会「大人が輝く」に参加したが、事例発表では、青森県社会教育委員がアクティブに動いている様子が発表され、委員が核となって動き社会教育の広がりを感じた。

小松市の伝統芸能についての取組では、社会教育委員が中心となり、伝統芸能の体験活動の発表であった。充実した取組がなされ、社会教育委員の存在意義が地域・市内・県内にアピールされていた。研修の報告に代えたい。

議長 以上で議事を終了し、議長の任を解かせていただく。

5 諸連絡 次期の生涯学習審議会委員・社会教育委員の報告

6 閉会